

2018年度 短大自己点検・評価 自己点検・評価総括用シート 1

<短大の教育研究目標の進捗状況>

教育研究目標(タイトル)		評価指標	評価尺度	進捗状況
目標1	保育に関する専門的な知識や技術を教授し、保育者として高い資質・能力を育む。	新制度の周知・徹底。 新カリキュラムの編成 および授業内容の周知	A: 完全実施 B: 文部科学省に新教育課程を提出した C: 学内では検討している D: 検討していない	2018年度目標値 B
				2018年度 自己点検・評価後 (2018年度帳票提出 時点) B
目標2	保育に関する研究成果を発信するとともに社会に還元し、保育界、地域社会との連携を強化する。	①研究成果の公開発表・発信件数、公的研究資金の獲得状況 ②保育界、地域社会との連携強化を図る各種取り組みの実施実績	A: 50%の増加 B: 25~49%の増加 C: 現状~24%の増加(2015年度のみ現状のままをCとしている) D: 減少	2018年度目標値 C
				2018年度 自己点検・評価後 (2018年度帳票提出 時点) A
目標3	一人一人の学生の夢の実現に向けて、学生支援を強化する。	①就職率 ②幼稚園教諭免許の取得率 ③保育士資格の取得率	A: 100% B: 95% C: 90% D: 80%	2018年度目標値 C
				2018年度 自己点検・評価後 (2018年度帳票提出 時点) B

＜2016～2018年度の自己点検・評価の取組み総括＞

総括1 ＜3年間の取組みによって改善したこと、向上したこと＞

1. 聖和短期大学の理念、目的に関する事項

建学の精神・教育理念、教育目標(学則)、学章、めざす人間像、めざす学生像、学生の受け入れ方針、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、教育研究目標、学習成果について、明確かつ具体的に示し、統一性のあるものに変更した。

特に、学生の受け入れ方針については、求める学生像、入学者選抜の基本方針を定め、各入試制度を設定した。

2. 教育研究目標に関する事項

(1) 教育研究目標1(保育に関する専門的な知識や技術を教授し、保育者として高い資質・能力を育む)

本学では、保育に関する専門的な知識や技術を教授し、保育者として高い資質・能力を育むことを目標として掲げ、教授会において新制度の周知・徹底を図るとともに、新教育課程の編成および授業内容の周知に努めた。

また、新教育課程に関する説明会等に積極的に参加し、新教育課程に関する情報収集をして教職員で共有し、検討を行った。その後、教育課程基本方針策定委員会や教務委員会を定期的に開催して新教育課程の編成を行い、教授内容について教授会で周知を図り、必要書類を作成して文部科学省に提出した。新教育課程で求められている科目の整理および統合を行ったことによって、学生に学ばせたい内容や方向性が明確になったと考えられる。

(2) 教育研究目標2(保育に関する研究成果を発信するとともに社会に還元し、保育界、地域社会との連携を強化する)

3年間の取組みにより、

①研究成果の公開発表・発信件数、公的研究資金の獲得状況

②保育界、地域社会との連携強化を図る各種取組みの実施実績

というそれぞれの評価指標で目標値を達成することができた。

3. 学生の受け入れに関する事項

(1) 入試制度の改正

・2018年度入試(2017年度実施)より、公募推薦入試後期を新設。(※2019年度入試より、公募推薦入試Cに変更。)

・2018年度入試(2017年度実施)より、社会人入試を新設。

・2019年度入試(2018年度実施)より、一般入試Bを新設。

— 募集定員確保のため、他学との併願可能とする推薦入試および2月以降の受験機会を提供する一般入試Bを新設した。

(2) オープンキャンパスの改善

・2017年度より年間4回から5回開催へ変更。

・2018年度については、夏のオープンキャンパスのうち1回を教育学部と同時開催、および大学オープンキャンパス(10月、3月)に聖和短期大学ブースを開設。

(3) 学生による母校訪問の実施

・2018年度より、在学生による母校訪問を実施。入学後の現況報告を兼ねて、進路担当教員に推薦依頼を行った。

4. 学生支援の方針(修学支援、生活支援、進路支援)に関する事項

(1) 修学支援に関する事項

- ・アドバイザー制度の改善:2017年度入学生より全教員(学長除く)がアドバイザー担当となり、2年次移行の際も持ち上がりとするにより、2年間を通して同一教員が支援する体制を整えた。
- ・GPA顕彰の実施:2018年度より、各学期のGPA席次上位10%の学生に顕彰を開始した。
- ・ラーニングコモンズ、ミュージックラボの新設:2017年度新2号館建設に伴い、ラーニングコモンズ「リプラ」、ミュージックラボがオープン。学修支援のための施設拡充が図られた。
- ・履修カルテの活用:2016年度入学生より、履修カルテを導入。アドバイザーが内容の確認・点検を実施することとした。
- ・授業評価アンケートの公開・活用:2016年度より授業評価アンケート結果の学生向け公開を実施。
また、アンケート結果を受けての授業改善計画の提出義務付けおよびFD検討会での活用を図った。
- ・卒業時アンケートの実施:2016年度卒業生よりアンケートを実施。在学中の満足度や学習成果の指標として活用した。

(2) 生活支援に関する事項

- ・上谷潤子奨学金制度の改正:2016年度入学生より、上谷潤子入学時奨学金制度を新設し、新入生のうち15名に各30万円支給した。
- ・関西学院大学総合支援センターとの連携:2017年度より、短期大学学生担当教員・職員が総合支援センター会議に出席。連携強化を図った。

(3) 進路支援に関する事項

- ・就職懇談会の開催 : 2017年度より就職先(幼稚園、保育所等)を集めて就職懇談会を開催。就職先へのアンケートにより、卒業生の評価、本学に求められる教育内容等を収集し、教育方針検討等に活用した。
- ・就職フェアの開催 : 2017年度より近隣自治体を通して、保育所就職フェアを開催。学生の進路決定検討機会の拡充を図った。
- ・関西学院大学指定校推薦編入学枠の拡大:2019年度入試より、人間福祉学部3人⇒6人(増枠)、神学部2人(新設)となった。

5. その他(社会貢献・保護者支援等)

- ・保育士等キャリアアップ研修の実施:2017年度より保育士等キャリアアップ研修を実施。県下の保育所等のニーズに応えることができた。2018年度は兵庫県に加えて大阪府でも実施する。
- ・地区別教育懇談会の実施:2018年度より地区別教育懇談会を実施した。2018年度は神戸市以西地域の保護者を対象とした。

評価専門委員・所見記入欄:

■総括1について

- ・【理念・目的に関する事項】
3つのポリシーなどの方針について、評価の指摘などを踏まえ、適切に改善が行われるなど、そのマネジメント実践について評価できます。
【教育研究目標に関する事項】
新教育課程の編成など全学的取組みにより、文部科学省に必要書類の提出がなされました。今後はその着実な履行を期待します。
研究成果の発信、社会貢献について、当初の目標値を大幅に超える成果をあげられたことは評価できます。
今後も着実な履行を期待します。
【学生の受け入れに関する事項】
短期大学を取り巻く環境の厳しい状況下にあつて、入試制度の改革、学生による母校訪問など様々な取組みにより、学生確保に努められていることは評価できます。
【学生支援の方針に関する事項】
アドバイザー制度などによる修学支援、就職懇談会・フェアの開催などによる進路支援により学生一人ひとりの夢の実現に向けた取組みにより、当初の目標値を上回る成果をあげられたことは評価できます。

これまでの3年間の取組みにより、教学マネジメントの実践により、着実な成果を上げられるようになりました。

これからも絶えざる自己改革(革新)により、さらなる高みをめざして向上されることを期待します。(A)

- ・ 学生による母校訪問が実施されていることは、非常によい取り組みである。その効果が出ているのかどうかをモニターして改善していくことができれば、PDCAが回る。(C)
- ・ 入試制度の改正と求める学生像、入学者選抜の基本方針の見直しがきちんとつながっている様子がうかがえます。
- ・ 学習成果指標の設定は課題でしたが、卒業生アンケート等を実施し、指標として活用されているとのこと。今後さらに多角的な視点で指標が開発されることを期待します。(D)
- ・ 良好な進捗状況であり評価できます。(E)
- ・ いずれの教育研究目標についても、設定した目標値を達成しています。引き続き短期大学として自律的・積極的な改善活動を進められることを期待しています。(F)
- ・ 様々な取り組み、工夫を行っていることが伺えます。引き続き精力的な取り組みが期待されます。(G)